

未来へ残す

糸魚川東中学校 2年1組 朝比奈 小春

私がこの研修に参加しようと思ったきっかけが、毎年8月6日に行われている、平和記念式典の様子をテレビで見て、興味を持ちました。この研修では、被爆者の方からお話を聞き、平和記念式典に参列するなど、貴重な体験をしてきました。

研修の中で一番心に残っていることが広島平和記念資料館で見た、被爆者の方々の生涯です。原爆が落ちたときの人の様子や環境、そして遺品を見て、あまりにも悲惨な出来事だと思いました。焼けた遺体や、変色した遺体、皮膚が垂れ下がり、やけどをした方など、悲しすぎる現実だと思います。もし、自分が大切な人、親しい人を一瞬にしてなくしてしまったらと思うと涙が止まりませんでした。

被爆をした方がたくさんいる中で特に考えさせられた人が、原爆の子の像のモデルとなった、佐々木禎子さんです。佐々木さんは2歳の時に被爆をし、白血病によって享年12歳で亡くなった方でした。生きたくても生きられない、そのような思いをした方がたくさんいるのだとわかりました。そして亡くなる最後まで、自分の病気と懸命に戦い続け、平和を願ったのだとわかりました。

研修全体を通して学んだことはたくさんありますが、特に、未来へ伝えていかなければいけないことがたくさんあること、人の命の重さを知ることができました。被爆によって亡くなった方の最後はどんな状況だったのか、肌が焼け、想像を絶するような痛みを感じた人がどれほど多くいたのかなど、時代が

過ぎ、伝える人がいなくなっていくほど、伝えなければいけないことがたくさんあると思いました。そして、人の命が原爆によって、戦争によって奪われていいものではないとわかりました。人の命の重さはみんな平等であるべきで、人が作った核兵器で人の命が奪われる未来は絶対にあってははいけません。改めてそのことを知ることができました。

わたしはこの研修がなければ、戦争や原爆について深く知ることはなかったと思います。毎年行われている広島平和記念式典をぼんやりとテレビを通して、見ているだけだったと思います。ですが、この研修を境に、原爆について、戦争について興味を持つことができました。「戦争はしてはいけない」ということだけを考えているのではなく、どんな被害がこれまであって、何人もの人が亡くなったのか、ということを知っていくからこそ、戦争について学ぶことができました。

この研修で学んだことは原爆被害の一部で、私がまだ知らないことがたくさんあると思います。自分のまだ知らない原爆の被害について、もっと知り、少しでも多くの人に広めて、未来に残していきたいです。

今の生活を、家族を、友達を、支えてくださっている方を大切にしていきたいです。

最後に、この広島派遣研修に連れて行ってくださった職員の皆さま、一緒に学んだ生徒の皆さん、本当にありがとうございました。
